

21PO-am256

高齢者を対象としたかんぴょうパウダー摂取による生活習慣病予防及び改善効果
- 終末糖化産物 (AGEs) を指標とした検討 -

○小栗 也実¹, 小澤 佐余子¹, 高石 雅樹¹, 浅野 哲¹ (国際医福大薬)

【目的】終末糖化産物 (AGEs) は強い毒性をもち、体内に蓄積することで、糖尿病や高血圧など様々な生活習慣病の要因となることが報告されている。そして、体内の AGE 蓄積量は加齢と共に増加するといわれている。我々はこれまでに、健康な 20 代成人を対象にかんぴょうパウダー摂取が体内 AGE 量を低下させることを見出している。そこで、かんぴょうパウダー摂取による生活習慣病の予防及び改善効果を、平常時より体内 AGE 蓄積量が多く、生活習慣病をはじめとする様々な基礎疾患を持つ高齢者を対象に、体内 AGE 量や血糖値などを指標に検討した。

【方法】介護施設居住者 (6 名) を含む高齢者男女 (76~95 歳) 10 名に、かんぴょうパウダーを昼食時及び夕食時にそれぞれ 1.5g ずつ食事に添加し、12 週間毎日摂取させた。1 週間毎に AGE 値、血糖値、血圧、脈拍、体温を測定した。

【結果・考察】血圧、脈拍、体温についてはかんぴょうパウダー摂取による変化は認められなかった。血糖値は 3 名で摂取 1 週間後から全体的に低下傾向、5 名は摂取 8 週間後までは低下傾向であり、その後横ばいまたは上昇傾向となった。AGE 値は 5 名で低下傾向がみられ、摂取 1 週間後より低下する者と、数週間経過後より低下する者がいた。血糖値と AGE 値ともに、食事が管理されている施設居住者でより低下する傾向にあった。また、怪我や体調不良の直後に AGE 値の急激な上昇がみられ、ストレスや食事管理の不徹底が AGE 値に影響を及ぼすことが示唆された。以上の結果から、かんぴょうパウダーの摂取が糖の吸収を抑制することにより、体内 AGE 量を減少させることが示唆された。